

どなたでも参加できます

無料
講演

お父さんの健康を考える 前立腺がんのお話

2017年10月7日(土) 13:00 ~ 17:00

会場 慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス2号館4階 記念講堂
東京都港区芝公園1-5-30



講演 1 鈴木 啓悦 先生 東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科 教授

前立腺がんの診断から治療までの流れ・侵襲の少ない外科手術へ

前立腺がんは、高齢化社会の到来と食生活の欧米化にもなつて、我が国でも急増しており、2015年以降男性の最もかかりやすいがんとなっています。前立腺がんを早期に発見するには、前立腺特異抗原(PSA)検査が有用です。前立腺がんが疑われる場合には、前立腺に針を刺して、前立腺組織を採取して(前立腺針生検)、顕微鏡でがんの有無を調べます。さらに前立腺がんが見つかった場合には、CTや骨スキャンで転移の有無を調べる事になります。前立腺がんの治療法には、手術・放射線治療・ホルモン療法・化学療法(抗がん剤)などがあります。患者さんの年齢やこれまでの病歴、がんの悪性度や広がりなどを総合的に判断して治療を決めることが大切です。特に手術に関しては、従来の開腹手術からより侵襲の少ないロボット支援腹腔鏡手術も導入されてQOLの高い治療が可能になっています。

講演 2 石川 仁 先生 筑波大学附属病院 放射線腫瘍科 准教授

ピンポイント放射線治療はどこまでできたか

前立腺がんに対する放射線治療は手術成績に相当する治療成績が得られるようになってきました。しかし、その成功のためには十分な量の放射線をがん細胞に照射すると同時に、前立腺以外の正常な臓器に影響を与えないように、前立腺のみに放射線量を集中させる照射技術が必要で、最新の画像診断学、医学物理学、放射線生物学などを応用することで、前立腺がんに対する放射線治療がいに進歩し、その成績が向上してきたかについて解説します。また、現在行われている最先端の高精度放射線治療の方法と患者さん自身ができる副作用を減らせるためのコツについて紹介します。

講演 3 草山 俊之 先生 アステラス製薬株式会社 研究本部 主管研究員

治療薬のこれまで・そしてこれから

前立腺がんは高齢の男性に発症するがんであり、他のがん(膵がん、肺がんなど)と比較して、進行が穏やかであることが知られています。その薬物療法も、ある程度ステージが進んだ患者さまが適応となるにもかかわらず、他のがんに対する抗がん剤と比較して、一般的に有効率も高く、副作用もひどくないとされています。前立腺がん細胞は男性ホルモン(アンドロゲン)により増殖することから、このアンドロゲンの生成を抑える、あるいはアンドロゲンの作用を阻害する薬剤が用いられます。がん細胞は「生き残ろうとする力」が強いため、しばらくするとこれらの薬剤も効かなくなってしまうことがあります。最近では、そのような薬剤が効かなくなった症例にも有効性が期待される新しい薬剤が使われるようになりました。これらの薬剤について、わかりやすく説明したいと思います。併せて、「これからの薬剤」についても少し紹介いたします。

講演 4 鈴木 啓悦 先生 東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科 教授

最新の薬物療法はどこまでできたか

前立腺がんは、男性ホルモンであるアンドロゲンが産生・進行に関与することが知られ、1940年代から男性ホルモンを低下させることで前立腺がんを抑制するホルモン療法が広く行われてきました。精巣摘出で行われてきたホルモン療法も25年前からは注射や内服薬によって外来通院で可能となりました。ホルモン療法は転移がんで発見された方でも有効です。ただし、ホルモン療法は効果がなくなってしまうことが問題です(去勢抵抗性がんと呼びます)。このような場合でも、より強いホルモン療法の薬剤(CYP17阻害剤やアンドロゲン受容体シグナル伝達阻害剤)、タキサン系抗がん剤(ドセタキセルなど)、骨転移治療に有効なα線放射線性医薬品などが有効です。どの薬剤を使うかは、患者さんの状況に合わせて決められます。最近の前立腺がん治療は日進月歩ですので、ここでは最新の薬物療法についてお話します。

草山 俊之先生 プロフィール

1992年 東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻修士課程を修了。1992年 山之内製薬株式会社に入社、中央研究所 第二創薬研究所に配属。以後、循環器領域及び癌領域の非臨床薬理研究に従事。2010年10月より現職。



石川 仁先生 プロフィール

1995年 群馬大学医学部卒業。同放射線医学教室入局。2008年 米国ロチェスター大学留学。放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院院長、群馬大学医学部附属病院講師、等を経て2011年より現職。



鈴木 啓悦先生 プロフィール

1990年 千葉大学医学部卒業。1996年 米国ジョンス・ホプキンス大学留学。2006年 千葉大学大学院泌尿器科学助教授。2007年 千葉大学病院診療教授兼任。2010年より現職。2011年より東邦大学医療センター佐倉病院 院長補佐兼任。



市民公開
シンポジウム

無料

講演会「お父さんの健康を考えよう 前立腺がんのお話」参加予約のお申し込み

参加予約お申し込み期間 申込み締切：2017年9月25日(月) 郵便の場合消印有効

参加予約の
お申し込みは
こちらから

先着350名さま

郵便で 2017年9月25日(月) 消印有効

272-8513

千葉県市川市
菅野5-11-13
市川総合病院
角膜センター内
HAB市民シンポ
ジウム事務局

- ①「第31回市民公開シンポジウム参加希望」
- ②参加される方のお名前*1
- ③参加券送付先ご住所*1*2
- ④同伴者のお名前(1名)

ハガキまたは封書に

- ①「第31回市民公開シンポジウム参加希望」
- ②参加される方のお名前*1
- ③参加券送付先ご住所*1*2
- ④同伴者がいる場合は、同伴者のお名前(1名)を明記し投函してください。不明点がある場合は無効となりますので投函前にご確認をお願いいたします。

*1 複数名での申込みの場合は、代表者のお名前とご住所のみ記入。

*2 参加券はクロネコDM便での配達になります。転送はされませんので、確実にお手元に届く住所でお申込みください。(ご案内の目的以外に、これらの個人情報を使用することはありません)

メールで 31-habsympo@hab.or.jp

メールの件名に「第31回市民公開シンポジウム参加希望」、メールの本文に ①参加される方のお名前*1 ②参加券送付先ご住所*1*2 ③同伴者がいる場合は、同伴者のお名前(1名)を入力して送信してください。不明点がある場合は無効となりますので、送信前にご確認をお願いいたします。

研修認定薬剤師制度について

本シンポジウムは、財団法人日本薬剤師研修センター2単位(3時間)申請中の会合です。認定シールをご希望の方は、参加申し込みの際にお申し出ください。

